

# 令和4年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である(できている)」 「3…ほぼ期待どおりである(ほぼできている)」 「2…やや期待を下回る(あまりできていない)」 「1…改善を要する(できていない)」

学校 目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
目指す 学校像	(1)子供たちの可能性を引き出し個性を育む学校 ①幼小中高の一貫教育の推進。発達段階・実態に即した指導法の工夫・改善 ②異なる価値観を認める心、互いを尊重し認め合う心の育成 ③健康に過ごせる環境の確保と充実 (2)子どもたちが夢を描き、その夢を叶えられる学校 ①発達段階に応じた言語力・基礎学力の向上 ②キャリア教育の充実。多様化する生徒一人一人の希望進路への対応 ③施設・設備等、適切な教育環境の確保 (3)職員がやり甲斐をもって、互いにいきいきと過ごすことのできる学校 ①研修時間の確保による教職員の専門性向上 ②組織的かつ機能的な学校運営 ③働き方改革の推進 (4)聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす学校 ①家庭、関係機関との連携強化 ②地域における聴覚障がい児教育のセンター的機能の発揮 ③開かれた学校づくりの推進					
R4年度 経営 ビジョン	「温故置新」～創立95年 次の100年に向けこれまでの積み重ねをより良い形で置き換えていく～ (1)「新学習指導要領」に則った教育改善 ①新教育課程の編成及び検証・改善（評価含む）、「学びの連続性」の再確認 ②自立と社会参加に向けた教育の充実 (2)社会の変化にあわせた学びの環境整備 ①「新しい生活様式」に沿った授業・学校行事の在り方 ②情報教育の強化、ICT機器の有効活用（広報含む） ③「SDGs」の取組の推進 ④18歳成人への対応 (3)働き方改革の推進 ①業務の効率化 ②コンプライアンスの徹底					
評価 項目	評価 指標	自己 評価	保護者 評価	学校の自己評価（成果・課題等）	学校関係者 評価	学校関係者からの感想並びに提言等
（1） 子供 たち の 可 能 性 を 引 き 出 し 可 能 性 を 引 き 出 し	子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	3.0	3.4	○ プレゼンテーションや手作り教材など視覚情報を保障した授業を行い、児童生徒アンケートにおいても「授業がわかる、楽しい」という点については高評価である。しかし、実態には個人差もあるため、その多様なニーズに十分応えられているかという点で課題を感じている職員も多い。授業研究の在り方を更に工夫し、より良い授業づくりに繋げていきたい。	3.0	I 今年度の教育活動について  (1) 発達段階に応じた専門的な指導が行われている。 (2) コロナ禍ではあったが、行事や交流等、子どもたちに必要な教育活動が実践されている。 (3) ICT活用については、今後、聴覚障害の子どもたちにとって大切なコミュニケーションツールとなる。筆談やチャット等を場に応じて選んで使えるようになるのが望ましい。小学校、中学校での実践紹介またはICTに詳しい職員を派遣し研修協力することも可能。ぜひ横に繋がって職員の指導力向上に生かして欲しい。
	幼小中高で連携し、一貫性のある指導が実施できていますか。	2.6	3.2	○ 学期ごとの反省の中でも「連携」「一貫性」という言葉が多く聞かれ、本校の課題の一つと言える。コロナ禍で他学部と活動する機会も減り、低年齢時からどのように子供たちが育っていくのか、各年齢ごとにどのような視点を持ちながら社会的自立に繋げるのか等、見えにくくなっている部分もあるのではないかと。今後さらに「つなぎ」を大切に、卒業後を見据えた指導の在り方を検討していきたい。	2.9	
	自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権や社会的ルールを踏まえた行動ができるような指導ができていますか。	3.0	3.5	○ 昨今の社会情勢を踏まえ、高等部ではSNS等における人権侵害、個人情報の大切さ等についての学習や指導を行い、文化祭で発表することを通して他学部や保護者にも発信することができた。幼小中学部でも、発達年齢に応じた指導を積み重ねているところである。	3.3	
	施設や学校設備（遊具含む）の整備や環境美化が十分なされていますか。	2.8	3.1	○ 学校・寄宿舎共に老朽化は否めないが、冷房設備工事やLEDへの取り替え工事など順次改善を行っているところである。台風後の修繕等も、迅速に修繕を依頼し対応した。屋外の危険な枝などをシルバー人材センターの方に排除してもらった等、小さな子供たちにとっても安全な環境となるよう努めている。次年度からは学校前の道路拡張工事が始まるため、工事車両の行き来についても十分に打合せを行い、事故の防止に努めたい。	3.3	
	感染症などの病気の予防と対策が徹底されていますか。	3.2	3.5	○ 保護者の理解と協力もあり、体調不良時の早めの対応や出席停止等の適切な措置を行いながら、感染拡大防止に努めた。校内での消毒やマスクの着用等も定着し、行事实施時の人数制限等の考え方が浸透したことで、規模を縮小しながらではあるが教育活動をほぼ予定通りに実施することができた。	3.5	
	災害への対応について、適切な行動の指導や必要な準備がなされていますか。	2.8	3.2	○ 電光掲示板の設置が保護者・職員の長年の願いであり、数年間県へ要望している。子供たちの安全のために早急な実現に向け引き続き要請していきたい。また次年度は、より実践的な力が身につくよう学部ごとの不審者対応訓練の実施も予定している。	3.2	
（2） その 子 夢	授業において、言語力や基礎学力の向上を意識した指導が実施できていますか。	2.9	3.4	○ 言語に関する諸検査等も活用し、その結果を保護者とも共有しながら言語力の向上に取り組んでいる。またNIE全国大会（8月）で実践発表を行ったが、長い間新聞を活用した指導にも取り組んでいるところである。しかし、抽象的、論理的な思考力の伸長については、基礎的事項を押さえるに留まり深められていないケースもある。他の聴覚支援学校の先進的な取組にも目を向けながら、更に学力向上に取り組んでいきたい。	2.9	(1) 聴覚支援学校の専門性とは「日本語を育てる」こと、最終的に「書き言葉を身につけられるか」ということである。そういった聴覚障害教育ならではの専門性を継承してほしい。 (2) NIEでの発表など新聞を活用した取組は素晴らしい。読んで知ることを楽しめるようになると自ら新聞を読むようになる。家庭の理解・協力を得ながら広げてほしい。 (3) 幼児から高校生までが在籍し、その成長をずっと見守っていけるところは本校の良いところ。「子どもは必ず育つ」ということを実感でき、その感動が職員のやりがいに繋がる。新しく
	わかりやすい教材教具の工夫や配慮が実施できていますか。	3.0	3.4	○ 全職員が指導案を元にした授業を行い、動画に撮って事後研究を行った。授業づくりに客観的視点を取り入れることで改善に繋がる。今後とも相互の参観と助言を行う取組を続けていきたい。	3.3	

を も 叶 た え ち ら が れ 夢 を 学 描 校 き、	行事や体験学習などにより、豊かな経験を広げることができていますか。	3.0	3.4	○ 交流活動、校外学習等、感染状況を見ながら可能な限り行事や体験活動を実施した。直接体験による学びが大いことを改めて実感したところである。児童生徒アンケートでも行事に対する積極性が見て取れるが、学習内容が多岐に渡り、子供たち自身も多忙な様子も見受けられるため、十分に精選して実施していくことが今後の課題である。	3.3	赴任した職員が手話や指導の仕方を身につけ、子どもたちの成長を見守る喜びを感じられるように、ぜひ異動までの期間など県にも御配慮いただきたい。
	個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	3.0	3.4	○ 高等部1名が専攻科、中学部から1名が県立高校、1名が他の特別支援学校に進学した。また幼稚部からは1名が地域就学を選択した。一方で、卒業生において、就労後にうまく適応できない事例も複数報告があった。それぞれの選択肢におけるメリットデメリット等の情報を十分に伝えながら、適切な進路選択に繋がられるようにしていきたい。	3.3	
	ICTの活用を含め、時代に即し、障がいに対応した十分な教育環境が整っていますか。	2.6	3.2	○ ICTの活用については、昨年度の実践を元に職員研修を行った。しかし、各教科、各幼児児童生徒に合った活用の仕方となると十分とは言えない。コロナ禍での部品不足等もあり、新入生分のタブレットが届かないといった問題もあった。次年度はICT教育を推進するための組織を見直し、実践に繋がる取組をしたい。	3.2	
互 い に い き ま と 過 ご す こ と の で き る 学 校	障がいの実態に応じた指導・支援が日々実践できていますか。	2.9	3.4	○ 全職員が手話の使用や日本語指導を初めとして積極的に聴覚障がい教育を学んでいる。細やかな実態把握を元にニーズに応じた指導を行っているが、教科指導を深めると聴覚障がいの専門性を学ぶことの両方を進めていくことに悩む職員もいる。校内外の研修を活用し、家庭と連携しながらより良い実践に繋げたい。	3.0	Ⅲ 聴覚障害教育および配慮事項等を含めた理解啓発について  (1) 本校の取組や聴覚障害について正しく知ってもらうことが必要。「音を大きくすれば聞こえる」と思われがちだがそうではない。災害への対応（電子掲示板の設置）などは急務である。校内放送で呼びかけられない危険な状況を県にも理解していただきたい。 (2) 「手話言語条例」のことを知らない人、機関が多いのでは。都城市も宮崎県でも制定されているが、何が変わったのか。定めるだけでなく推進することが必要。学校もアピールしもっと要求して良いのではないかと。 (3) 他校との交流活動において、小・中学校の職員も聴覚障害について学ばべき。それによって関わり方、伝え方が変わってくる。 (4) 地域への理解啓発については、学校だけでは難しい部分も多い。ぜひ学校評議員をもっと活用して欲しい。
	(職員のみ) 研修を実施し、職員の専門的指導力の向上に取り組んでいますか。	2.9		○ 今年度の新たな取り組みとして、聴覚障がい者センターとのオンライン手話研修会を実施した。正確な手話を知ると同時に、聴覚障がい児者との関わり方等についても多くの学びを得ることができた。10回の手話研修会に加え、新任者は10回以上の校内研修の場があり、幅広く聴覚障がい教育を学ぶことができた。一方で、職員数の減少や転勤により、経験を伝える側の職員が減っている現状もあるため、より実践に繋がられるような学びの場をどのように確保するか、県教育委員会とも連携しながら考えていきたい。	2.8	
	(職員のみ) 校内でのOJTを推進し、課題に対して組織（各部）で取り組んでいますか。	2.9		○ 今年度、指導教諭が2名に増え、初任者指導、指導案作成等の助言や日々の授業における相談等、後進の育成に尽力していただいた。また、各学部、寄宿舎それぞれが喫緊の課題をテーマに研究に取り組んだ。日常的に多忙であることやコロナ禍で人間関係が希薄になりがちであることもあり、職員チームとしての一体感を更に構築していけるようにしたい。	3.0	
	(職員のみ) 働きやすい環境作りについて取り組んでいますか。	2.8		○ 授業準備に時間がかかること、在籍数に伴い職員数が減少していることを背景に、多くの職員が日々2時間を越える残業をしている。週末に学校に出てきて仕事をし、何とか業務をこなしている状況も見られる。業務においてもICTを活用するなどして、職員が心身共に健康に業務に取り組めるように、改善に努めたい。	3.3	
	学校での様子を懇談や連絡帳等でよく知ることが出来ますか(十分に知らせることができていますか)。	3.0	3.6	○ 担任との情報共有については、連絡帳や電話（メール）連絡、個別懇談等で細かなやりとりができていたようだ。子供たちの成長のために学校と家庭との連携は不可欠であるため、今後とも丁寧な情報交換を継続していきたい。	3.4	
セ ン タ ー 的 聴 覚 障 害 が 果 た す 学 校	子供のことを相談しやすく、ニーズに応じた支援（専門家や関係機関との連携を含む）ができていますか。	3.0	3.4	○ 必要に応じて臨床心理士を交えた発達相談会や、関係機関が揃ったケース会等を行っている。情報を共有することで組織として対応することができ、有効な指導支援に繋がった例もあった。引き続き、子供たちや保護者の困り感やニーズを丁寧に吸い上げ、早急に対応できるようにしていきたい。	3.3	Ⅳ センター的役割、地域との連携等について  (1) 地域からの入学や地域への入学（転出）の例もあるため、地域との繋がり、連携は必須。小中学校の職員の障害理解も促進する必要がある。地域に就学した聴覚障害児のサポートもしっかりお願いしたい。 (2) 横の繋がりは保護者や関係者、地域がもっと担うべきである。学校の努力だけでは難しいことも多いので、地域や家庭の役割について保護者にも理解・啓発を図ると良い。 (3) 地域資源を活用することで職員の忙しさの解消にも繋がるのではないかと。そういった意味でも、聴覚障害者センターとの連携は意味がある。
	教育相談体制の充実を図り、地域における聴覚障がい児教育のセンター的役割が果たされていますか。	3.1	3.2	○ 昨年度に比べ、乳幼児教育相談、通級指導、巡回相談等を計画的に実施できた。聴覚障がい児への配慮事項について、各学校に対して研修や助言を行うことも多く、センター的存在として役割を果たすことができた。さらに聴覚障がい児の保育・教育の充実のために、広報活動にも取り組みながら支援の輪を広げたい。	3.4	
	地域に学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.7	3.1	○ NIE全国大会での発表が新聞等で大きく取り上げられたことで、全国から反響があった。ホームページについては、日々の業務に追われると更新が滞りがちだったため、校内での決裁手続きを簡素化し、少しでも発信しやすい工夫したところである。今後メディアの活用を含め、本校の情報発信を積極的に行いたい。	3.3	